

PCT COOPERATION TREATY

From the INTERNATIONAL BUREAU

PTO/PCT Rec'd 30 JUL 2001

NOTIFICATION CONCERNING
SUBMISSION OR TRANSMITTAL
OF PRIORITY DOCUMENT

(PCT Administrative Instructions, Section 411)

To:

TAKANO, Toshihiko
Takano & Co.
32-802, Kitamachi
Shinjuku-ku, Tokyo 162-0834
JAPON

Date of mailing (day/month/year) 08 February 2001 (08.02.01)	IMPORTANT NOTIFICATION
Applicant's or agent's file reference 00SD042F-PCT	
International application No. PCT/JP00/08496	International filing date (day/month/year) 01 December 2000 (01.12.00)
International publication date (day/month/year) Not yet published	Priority date (day/month/year) 02 December 1999 (02.12.99)
Applicant SHISEIDO COMPANY, LTD et al	

1. The applicant is hereby notified of the date of receipt (except where the letters "NR" appear in the right-hand column) by the International Bureau of the priority document(s) relating to the earlier application(s) indicated below. Unless otherwise indicated by an asterisk appearing next to a date of receipt, or by the letters "NR", in the right-hand column, the priority document concerned was submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b).
2. This updates and replaces any previously issued notification concerning submission or transmittal of priority documents.
3. An **asterisk(*)** appearing next to a date of receipt, in the right-hand column, denotes a priority document submitted or transmitted to the International Bureau but not in compliance with Rule 17.1(a) or (b). In such a case, **the attention of the applicant is directed** to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.
4. The **letters "NR"** appearing in the right-hand column denote a priority document which was not received by the International Bureau or which the applicant did not request the receiving Office to prepare and transmit to the International Bureau, as provided by Rule 17.1(a) or (b), respectively. In such a case, **the attention of the applicant is directed** to Rule 17.1(c) which provides that no designated Office may disregard the priority claim concerned before giving the applicant an opportunity, upon entry into the national phase, to furnish the priority document within a time limit which is reasonable under the circumstances.

<u>Priority date</u>	<u>Priority application No.</u>	<u>Country or regional Office or PCT receiving Office</u>	<u>Date of receipt of priority document</u>
02 Dece 1999 (02.12.99)	11/343962	JP	29 Janu 2001 (29.01.01)

The International Bureau of WIPO
34, chemin des Colombettes
1211 Geneva 20, Switzerland

Facsimile No. (41-22) 740.14.35

Authorized officer

Somsak Thiphrakesone

Telephone No. (41-22) 338.83.38



国際調査報告

(法8条、法施行規則第40、41条)
[PCT18条、PCT規則43、44]

出願人又は代理人 00SD の書類記号 042F-PCT	今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(PCT/ISA/220)及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP00/08496	国際出願日 (日.月.年) 01.12.00	優先日 (日.月.年) 02.12.99
出願人(氏名又は名称) 株式会社資生堂		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT18条)の規定に従い出願人に送付する。
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 3 ページである。

☐ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。

☐ この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。

b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際調査を行った。

☐ この国際出願に含まれる書面による配列表

☐ この国際出願と共に提出されたフレキシブルディスクによる配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出された書面による配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出されたフレキシブルディスクによる配列表

☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

☐ 書面による配列表に記載した配列とフレキシブルディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

2. ☐ 請求の範囲の一部の調査ができない(第I欄参照)。

3. ☐ 発明の単一性が欠如している(第II欄参照)。

4. 発明の名称は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 第III欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT規則38.2(b))の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 要約書とともに公表される図は、

第 _____ 図とする。 ☐ 出願人が示したとおりである。

☒ なし

☐ 出願人は図を示さなかった。

☐ 本図は発明の特徴を一層よく表している。

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl.⁷ A61K7/025, A61K7/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl.⁷ A61K7/025, A61K7/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CA (STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P, 59-148713, A (株式会社資生堂), 25. 8月. 1984 (25. 08. 84), 特に、特許請求の範囲、第2頁左 下欄第12行~右下欄第3行及び実施例 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 3-63206, A (株式会社小林コーセイ), 19. 3 月. 1991 (19. 03. 91), 特に、特許請求の範囲 (ファ ミリーなし)	1-3
Y	J P, 11-147809, A (花王株式会社), 2. 6月. 19 99 (02. 06. 99), 特に実施例1-4 (ファミリーなし)	1-3

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

19. 02. 01

国際調査報告の発送日

06 03.01

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

上條のぶよ

4C

9454

電話番号 03-3581-1101 内線 3450

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P, 10-152412, A (株式会社資生堂), 9. 6月. 1998 (09. 06. 98), 特に実施例7, 8 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 10-72308, A (株式会社コーセー), 17. 3月. 1998 (17. 03. 98), 特に実施例3 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 3-176411, A (株式会社小林コーセー), 31. 7月. 1991 (31. 07. 91), 特に実施例3 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 10-152414, A (株式会社資生堂), 9. 6月. 1998 (09. 06. 98), 特に実施例4 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 7-196437, A (株式会社コーセー), 1. 8月. 1995 (01. 08. 95), 特に実施例4 (ファミリーなし)	1-3

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2001 年 6 月 7 日 (07.06.2001)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 01/39733 A1

(51) 国際特許分類: A61K 7/025, 7/00

(21) 国際出願番号: PCT/JP00/08496

(22) 国際出願日: 2000 年 12 月 1 日 (01.12.2000)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願平 11/343962 1999 年 12 月 2 日 (02.12.1999) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社 資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒104-8010 東京都中央区銀座 7-5-5 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 南 孝司 (MINAMI, Takashi) [JP/JP]. 細川欣哉 (HOSOKAWA, Kinya) [JP/JP]. 鈴木寿美玲 (SUZUKI, Sumire) [JP/JP].

宮崎高行 (MIYAZAKI, Takayuki) [JP/JP]. 曾山美和 (SOYAMA, Yoshikazu) [JP/JP]. 吉田邦彦 (YOSHIDA, Kunihiro) [JP/JP]. 難波 富幸 (NANBA, Tomiyuki) [JP/JP]; 〒224-8558 神奈川県横浜市都筑区早渕 2-2-1 株式会社 資生堂 リサーチセンター (新横浜) 内 Kanagawa (JP).

(74) 代理人: 高野俊彦, 外 (TAKANO, Toshihiko et al.); 〒162-0834 東京都新宿区北町 32-802 高野・志波国際特許事務所内 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (国内): CN, KR, US.

(84) 指定国 (広域): ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR).

添付公開書類:
— 国際調査報告書

2 文字コード及び他の略語については、定期発行される各 PCT ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: COMPOSITION FOR LIPSTICK

(54) 発明の名称: 口紅用組成物

(57) Abstract: A lipstick composition which not only has exceedingly good color-developing properties but is excellent in spreadability and gloss and lasts well. It has excellent shape retention even when it contains substantially no ceresine. The lipstick composition comprises (a) 3 to 25 wt.% one or more polyethylene waxes (average molecular weight, 300 to 700) and (b) 0.1 to 50 wt.% one or more liquid oily substances having one OH group in the structure.

(57) 要約:

本発明は、発色性に極めて優れるとともに、のび、つや、化粧もちにも優れる口紅用組成物を提供する。また、セレシンを実質的に使用しなくても、優れた保形性を有する口紅用組成物を提供する。

本発明は、(a) ポリエチレンワックス (平均分子量 300 ~ 700) の 1 種または 2 種以上を 3 ~ 25 質量%と、(b) 構造中に 1 個の -OH 基を有する液状油分の 1 種または 2 種以上を 0.1 ~ 50 質量%、とを含有してなる口紅用組成物である。

WO 01/39733 A1

明細書

口紅用組成物

5 技術分野

本発明は口紅用組成物に関する。さらに詳しくは、顔料の分散性が向上し、発色性に優れるとともに、のび、つや、化粧もちにも優れる口紅用組成物に関する。また、保形性に優れる口紅用組成物に関する。

10 背景技術

口紅は、唇に塗布することで唇に色彩を施し、つやを与え、魅力を引き出すために使用され、メーキャップ化粧品の中でも最も化粧効果が認められるものの一つである。この口紅に求められる品質上の機能の一つとして「発色」が挙げられる。一般に口紅に用いられる口紅用組成物には、ワックス、
15 各種液状油分、着色材を含む粉体、香料等が配合されており、それらの組合せにより、上記の品質上の機能に関連する口紅の基本的な使用性である、のび、つや、発色、化粧もち等を保つようにしている。

本発明は、口紅の基本的な使用性に関わる発色性を格段に向上させ、さら
20 にのび、つや、化粧もちにも優れた口紅用組成物を提供することを目的とする。

また、本発明は、従来口紅の保形剤として使用されるセレシンを実質的に用いることなく、保形性に優れた口紅用組成物を提供することを目的とする。

25 発明の開示

本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討を行った結果、ワックス成

2

分として特定の分子量のポリエチレンを用い、これと特定の液状油分とを特定量組み合わせて配合することにより、従来に比べ発色性が格段に向上し、かつ、のび、つや、化粧もちにも優れる口紅用組成物が得られることを見出し、本発明を完成するに至った。

5

すなわち本発明は、(a) ポリエチレンワックス (平均分子量 300 ~ 700) の 1 種または 2 種以上を 3 ~ 25 質量%と、(b) 構造中に 1 個の -OH 基を有する液状油分の 1 種または 2 種以上を 0.1 ~ 50 質量%、とを含有してなる口紅用組成物に関する。

10

なお、本発明において口紅用組成物とは、メーキャップ化粧料である、口紅に用いられる組成物を広く意味するものであり、スティック状、ペンシル状、軟膏状、液状等、その形態を問わない。また本発明は、ワックスを含有し、着色材を特に含まないリップクリームにも、のび、つや等の使用性向上の点から適用することができる。

15

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明について詳述する。

20

本発明において (a) 成分は、平均分子量 300 ~ 700、好ましくは 500 ~ 700 のポリエチレンワックスである。ポリエチレンワックスは、従来から油性化粧料の固化剤、保形剤等としてよく知られているものである。本発明では、ポリエチレンワックスの平均分子量が 300 未満では固化力が劣るため好ましくなく、一方、700 超では融点が高くなり、液状油分への溶解が困難となるため好ましくない。(a) 成分は 1 種または 2 種以上を用

25

いることができる。

(a) 成分の配合量は、組成物全量中、3～25質量%であり、好ましくは5～20質量%である。配合量が3質量%未満では顔料の分散性の向上が十分でなく、一方、25質量%超では塗布時ののびが重くなり、好ましくない。

本発明の(b)成分としては、構造中に1個の-OH基を有する液状油分が用いられる。ここで「液状油分」とは常温で液状の油分をいう。(b)成分としては、具体的には、ジイソステアリン酸グリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、リンゴ酸ジイソステアリル等のエステル油が例示され、中でもジイソステアリン酸グリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、オキシステアリン酸イソステアリルが特に好ましい。(b)成分は1種または2種以上を用いることができる。

(b)成分の配合量は、組成物全量中、0.1～50質量%であり、好ましくは0.1～45質量%である。配合量が0.1質量%未満では発色の向上が十分でなく、一方、50質量%超では塗布時ののびが重くなり、好ましくない。

(a)成分と(b)成分を上記のように組み合わせて配合することにより、唇上における発色が格段に向上し、かつのびやつや、化粧もちが良好な口紅用組成物が得られる。

本発明口紅用組成物中には、上記の必須成分のほかに、口紅用組成物中に一般的に配合される他の任意成分、例えば保形剤、油分、粉体等を配合する

ことができる。

- 保形剤としては、ワックス類として、上記（a）成分としてのポリエチレンワックスのほかに、例えば、カルナバワックス、パラフィンワックス、マイクロクリスタリンワックス等が挙げられ、これらの中から1種または2種以上が任意に選択される。なお、本発明組成物中に、総配合量として3～25質量%程度配合するのが好ましい。

また、（a）のポリエチレンワックスと（c）マイクロクリスタリンワックスを6：4～9：1の比で配合することが、保形性の点で特に好ましい。

- 10 マイクロクリスタリンワックスは、組成物中に、通常0.1～10質量%配合される。

- 油分としては、上記（b）成分としての液状油分のほかに、例えば、スクワラン、流動パラフィン、ワセリン等の炭化水素油；ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、ベヘン酸等の高級脂肪酸；セチルアルコール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、バチルアルコール等の高級アルコール；セチルー2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、2-オクチルドデシルミリステート、ネオペンチルグリコール-2-エチルヘキサノエート、トリオクタン酸グリセリド、テトラオクタン酸ペンタエリスリトール、イソプロピルミリステート、ミリスチルミリステート、トリオレイン酸グリセリド等のエステル類；オリーブ油、アボガド油、ホホバ油、ヒマワリ油、サフラワー油、椿油、シア脂、マカデミアナッツ油、ミンク油、ラノリン、液状ラノリン、酢酸ラノリン、ヒマシ油等の油脂；ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、高重合度のガム状ジメチルポリシロキサン、ポリエーテル変性シリコーン、25 アミノ変性シリコーン、高重合度のガム状アミノ変性シリコーン等のシ

5

リコーン系油分；パーフロロポリエーテル、パーフロロカーボン等のフッ素油分等が挙げられる。なお、本発明において、油分の配合量は、組成物全量中50質量%以上、特に70質量%以上であることが好ましい。

- 5 粉体としては、例えばタルク、カオリン、絹雲母（セリサイト）、白雲母、金雲母、合成雲母、ケイ酸アルミニウム、シリカ、硫酸バリウム、リン酸カルシウム等の無機粉末や、ナイロン粉末、セルロース粉末等の有機粉末のほか、各種顔料等が挙げられる。粉体の配合量は、組成物全量中0.1～30質量%程度が好ましく、特には0.1～15質量%程度である。

10

その他、例えば酸化防止剤、紫外線吸収剤、紫外線遮蔽剤、防腐剤、保湿剤、染料等を配合することができる。

実施例

- 15 以下、本発明を実施例に基づいてさらに詳細に説明するが、本発明はこれによってなんら限定されるものではない。なお、配合量は特記しない限り、組成物全量に対する質量%で示す。

- 20 なお、本実施例において、口紅用組成物の発色、のび、つや、化粧もちについて、下記の評価基準により評価した。

[発色]

専門パネル（15名）により、それぞれ以下の5段階評価してもらい、その結果から、発色について評価した。

- 25 （評点）

1： 発色が悪い

- 2 : 発色がやや悪い
- 3 : 発色が普通
- 4 : 発色がややよい
- 5 : 発色がよい

5 (発色の評価)

- ◎ : 評点平均値が 4.5 以上 5.0
- : 評点平均値が 3.5 以上 4.5 未満
- △ : 評点平均値が 2.5 以上 3.5 未満
- × : 評点平均値が 1.5 以上 2.5 未満
- 10 ×× : 評点平均値が 1.0 以上 1.5 未満

[のび]

専門パネル（15名）により、それぞれ以下の5段階評価してもらい、その結果から、のびについて評価した。

15 (評点)

- 1 : のびが悪い
- 2 : のびがやや悪い
- 3 : のびが普通
- 4 : のびがややよい
- 20 5 : のびがよい

(のびの評価)

- ◎ : 評点平均値が 4.5 以上 5.0
- : 評点平均値が 3.5 以上 4.5 未満
- △ : 評点平均値が 2.5 以上 3.5 未満
- 25 × : 評点平均値が 1.5 以上 2.5 未満
- ×× : 評点平均値が 1.0 以上 1.5 未満

[つや]

専門パネル（１５名）により、それぞれ以下の５段階評価してもらい、その結果から、つやについて評価した。

5 (評点)

- 1 : つやが悪い
- 2 : つやがやや悪い
- 3 : つやが普通
- 4 : つやがややよい

10 5 : つやがよい

(つやの評価)

- ◎ : 評点平均値が 4.5 以上 5.0
- : 評点平均値が 3.5 以上 4.5 未満
- △ : 評点平均値が 2.5 以上 3.5 未満
- 15 × : 評点平均値が 1.5 以上 2.5 未満
- ×× : 評点平均値が 1.0 以上 1.5 未満

[化粧もち]

20 専門パネル（１５名）により、それぞれ以下の５段階評価してもらい、その結果から、化粧もちについて評価した。

(評点)

- 1 : 化粧もちが悪い
- 2 : 化粧もちがやや悪い
- 3 : 化粧もちが普通
- 25 4 : 化粧もちがややよい
- 5 : 化粧もちがよい

(化粧もちの評価)

- ◎ : 評点平均値が 4.5 以上 5.0
○ : 評点平均値が 3.5 以上 4.5 未満
△ : 評点平均値が 2.5 以上 3.5 未満
5 × : 評点平均値が 1.5 以上 2.5 未満
×× : 評点平均値が 1.0 以上 1.5 未満

[保形性]

- 保形性は、充填成形したときの不良率（収縮孔、表面の剥離）によって評価した。

(保形性の評価)

- ◎ : 不良率 0 % 以上 1 % 未満
○ : 不良率 1 % 以上 5 % 未満
△ : 不良率 5 % 以上 10 % 未満
15 × : 不良率 10 % 以上

(実施例 1～6、比較例 1～7 : スティック状口紅用組成物)

下記表 1 に示す各組成の口紅用組成物を調製し、各実施例および比較例につき上記の評価基準に従い、発色、のび、つや、化粧もちの評価を行った。

- 20 結果を表 1 に示す。

表 1

	比較例			実施例			比較例			実施例			比較例		
	1	2	15	1	2	15	3	4	15	4	5	6	7	6	7
セレン	15							15							
ポリエチレンワックス (平均分子量 250)		15							15						
ポリエチレンワックス (平均分子量 300)				15						15					
ポリエチレンワックス (平均分子量 500)					15						15				
ポリエチレンワックス (平均分子量 700)							15					15			15
ポリエチレンワックス (平均分子量 800)								15						15	
ジイソステアリン酸グリセリル	20	20		20	20		20								
トリイソステアリン酸ジグリセリル								20	20	20	20	20	20	20	
ラノリン	10	10		10	10		10	10	10	10	10	10	10	10	10
トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリル	49	49		49	49		49	49	49	49	49	49	49	49	69
酸化鉄赤	4	4		4	4		4	4	4	4	4	4	4	4	4
赤色 202 号	2	2		2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2
発色	△	○		◎	◎		△	△	△	◎	◎	◎	△	△	△
のび	○	△	*1	○	○		×	○	△	○	○	○	×	×	○
つや	△	◎		◎	◎		△	△	◎	◎	◎	◎	△	△	△
化粧持ち	○	×		○	○		◎	○	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎
保形性	○	△		○	○		△	○	△	○	○	○	×	×	○

なお、表 1 において、比較例 2、比較例 5 での「のび」の評価 (△*1) は、
5 軟らかすぎてのびが悪いということを示す。

9 / 1

(実施例 7 ～ 13、比較例 8 ～ 14 : スティック状口紅)

下記表 2 に示す各組成の口紅用組成物を調製し、各実施例および比較例につき、上記の評価基準に従い、発色、のび、つや、化粧もちの評価を行った。

結果を表2に示す。

表2

	比較例		実施例		比較例		実施例		比較例				実施例			
	8	7	8	9	9	10	10	10	11	12	13	14	11	12	13	14
ポリエチレンワックス (平均分子量500)	1	15	25	30	15	15	15	15	15	15	15	15	9	12	12	14
セレンシンワックス	14															
マイクロクリスタリンワックス													6	4	2	
ジイソステアリン酸 グリセリル	30	30	30	30	0.1	50	60						30	30	30	30
オリブ油									30							
流動パラフィン										30						
ラリソ											30					
トリ-2-エチルヘ キサン酸グリセリル	49	49	39	34	78.9	29	19		49	49	49	79	49	49	49	49
ベンガラ	4	4	4	4	4	4	4		4	4	4	4	4	4	4	4
赤色202号	2	2	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2
発色	△	◎	◎	◎	○	◎	○		△	×	△	△	◎	◎	◎	◎
のび	○	○	○	×	○	○	△		○	○	△	◎	◎	◎	◎	◎
つや	○	◎	△	×	◎	◎	◎		○	○	○	△	◎	◎	◎	◎
化粧持ち	○	○	◎	◎	○	○	○		○	○	○	△	◎	◎	◎	◎
保形性	◎	○	○	×	○	○	○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎

(製法)

表 1、表 2 に示す各実施例、比較例において、各成分を 90～100℃で

溶解させ、分散機で分散した。次に脱気を行い、口紅容器に流し込み、冷却し、スティック状口紅用組成物を得た。

(評価)

- 5 表1及び表2から明らかなように、(a)成分を含まず、(b)成分のみを必須成分として含む組成物では、使用性の向上は認められなかった。また、必須成分として(a)成分のみを含む組成物においても、使用性の向上は認められなかった。ポリエチレンワックスは、分子量300～700のものを
用いた場合、本発明の効果が得られた。

10

- また、(a)成分、(b)成分の両者を組合わせた場合には、(a)成分を組成物全量中に3～25質量%、(b)成分を0.1～50質量%の範囲で配合した場合に、のび、つや、化粧もちを損なうことなく、発色が相乗的に向上した。(a)成分が25質量%を超えとのびが重くなり、つや、化粧
15 もちの点でも劣る傾向がみられた。また、液状油分として、(b)成分に代えてオリーブ油、流動パラフィン、ラノリン、トリー2-エチルヘキサン酸グリセリルを用いた場合では本発明の効果は認められなかった。

- さらに、実施例の組成物は、セレシンを用いなくとも、十分に保形性を有
20 するものであった。

(実施例14) スティック状口紅

	(配合成分)	(重量%)
	マイクロクリスタリンワックス	3
25	ポリエチレンワックス(平均分子量500)	15.0
	グリセリルトリオクタノエート	22

12

	重質流動パラフィン	10
	マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	10
	トリ（水素添加ロジン・イソステアリン酸）グリセリル	10
	グリセリルジイソステアレート	10
5	オキシステアリン酸イソステアリル	10
	顔料	10
	酸化防止剤	適量
	紫外線吸収剤	適量
	香料	適量
10	（製法）	
	常法により、口紅を製造した。発色、のび、つや、化粧もちに優れ、十分な保形性を有している。	

（実施例15：ペースト状口紅用組成物）

15	（配合成分）	（質量%）
	（1）ワセリン	8
	（2）ポリエチレンワックス（平均分子量500）	2
	（3）スクワラン	10
	（4）ヒマシ油	3
20	（5）トリイソステアリン酸ジグリセリル	5
	（6）トリイソステアリン酸グリセリル	2
	（7）シリコーン樹脂（分子量約5000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1/2} : \text{SiO}_2$ 単位 =0.8:1からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.33}\text{SiO}_{1.34}$ ）	25
	（8）デカメチルシクロペンタシロキサン	39.5
25	（9）シリカ	2.5
	（10）顔料	3

(11) 香料

適 量

(製法)

(1) ~ (11) の各成分を 90 ~ 100℃で溶解させ、分散機で分散した。
次に脱気を行い、口紅容器に流し込み、冷却し、ペースト状口紅用組成物を
5 得た。

(実施例 16 : スティック状口紅用組成物)

(配 合 成 分)	(質量%)
(1) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	8
10 (2) キャンデリラワックス	3
(3) スクワラン	8
(4) トリイソステアリン酸ジグリセリル	10
(5) マカデミアナッツ油脂肪酸エステル	2.5
(6) トリー 2-エチルヘキサン酸グリセリル	4.5
15 (7) シリコーン樹脂 (分子量約 6000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1/2} : \text{SiO}_2$ 単位 = 0.8 : 1 からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.33}\text{SiO}_{1.34}$)	20
(8) デカメチルシクロペンタシロキサン	34
(9) 微粒子硫酸バリウム	5
(10) 顔料	5
20 (11) 香料	適 量

(製法)

(1) ~ (11) の各成分を 90 ~ 100℃で溶解させ、分散機で分散した。
次に脱気を行い、口紅容器に流し込み、冷却し、スティック状口紅用組成物
25 を得た。

(実施例 17 : 乳化型スティック状口紅用組成物)

14

(配 合 成 分)	(質 量 %)
(1) パラフィンワックス	5
(2) マイクロクリスタリンワックス	4
(3) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	5
5 (4) トリイソステアリン酸ジグリセリル	3
(5) ジイソステアリン酸グリセリル	4
(6) マカデミアナッツ油	3
(7) ポリブテン	3
(8) ジイソステアリルマレート	4
10 (9) シリコーン樹脂 (分子量約8000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1/2} : \text{SiO}_2$ 単位 =0.8 : 1からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.33}\text{SiO}_{1.34}$)	30
(10) デカメチルシクロペンタシロキサン	10.5
(11) オクタメチルシクロテトラシロキサン	7
(12) ジメチルポリシロキサン (粘度 6 c s)	5
15 (13) シリカ	3
(14) 合成ケイ酸ナトリウム・マグネシウム	1
(15) ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体	2
(16) イオン交換水	5
(17) グリセリン	1
20 (18) 顔料	4.5
(19) 香料	適 量

(製法)

- (1) ~ (15)、(18)、(19) の各成分を 90 ~ 100℃で溶解させ、分散機で分散した。ここに (16)、(17) を加えてさらに分散した後、脱気を行い、
- 25 口紅容器に流し込み、冷却し、乳化型スティック状口紅用組成物を得た。

15

(実施例 18 : スティック状口紅用組成物)

(配 合 成 分)	(質 量 %)
(1) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	8
(2) キャンデリラワックス	3
5 (3) スクワラン	8
(4) トリイソステアリン酸ジグリセリル	3
(5) マカデミアナッツ油脂肪酸エステル	2.5
(6) トリー 2-エチルヘキサン酸グリセリル	1.5
(7) シリコーン樹脂 (分子量約6000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1/2} : \text{SiO}_2$ 単位	
10 $=0.8 : 1$ からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.33}\text{SiO}_{1.34}$)	20
(8) デカメチルシクロペンタシロキサン	43.95
(9) 微粒子硫酸バリウム	5
(10) 顔料	5
(11) カンファー	0.05
15 (12) 香料	適 量

(製法)

(1) ~ (12) の各成分を 90 ~ 100℃で溶解させ、分散機で分散した。次に脱気を行い、口紅容器に流し込み、冷却し、スティック状口紅用組成物を得た。

20

(実施例 19 : 乳化型スティック状口紅用組成物)

(配 合 成 分)	(質 量 %)
(1) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	10
(2) マイクロクリスタリンワックス	4
25 (3) ジイソステアリン酸グリセリル	7
(4) トリイソステアリン酸ジグリセリル	3

16

	(5) マカデミアナッツ油	3
	(6) ポリブテン	3
	(7) ジイソステアリルマレート	1
	(8) シリコーン樹脂 (分子量約8000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1/2} : \text{SiO}_2$ 単位	
5	=0.8 : 1からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.33}\text{SiO}_{1.34}$)	30
	(9) デカメチルシクロペンタシロキサン	10.46
	(10) オクタメチルシクロテトラシロキサン	7
	(11) ジメチルポリシロキサン (粘度 6 c s)	5
	(12) シリカ	3
10	(13) 合成ケイ酸ナトリウム・マグネシウム	1
	(14) ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体	2
	(15) イオン交換水	5
	(16) グリセリン	1
	(17) 顔料	4.5
15	(18) パントテニルエチルエーテル	0.01
	(19) 塩酸ピリドキシン	0.02
	(20) ロイヤルゼリー抽出液	0.01
	(21) 香料	適量

(製法)

- 20 (1) ~ (14)、(17) ~ (21) の各成分を 90 ~ 100℃で溶解させ、分散機で分散した。ここに (15)、(16) を加えてさらに分散した後、脱気を行い、口紅容器に流し込み、冷却し、乳化型スティック状口紅用組成物を得た。

(実施例 20 : スティック状口紅用組成物)

25 (配 合 成 分) (質量%)

A. 口紅基剤

17

	(1) カルナバワックス	0.5
	(2) キャンデリラワックス	5
	(3) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	10
	(4) スクワラン	30
5	(5) トリイソステアリン酸グリセリル	10
	(6) ジイソステアリン酸グリセリル	37.5

B. 抱水組成物

	(7) ヒドロキシプロピル化 β -シクロデキストリン	1
	(8) コレステロールエステル (イソステアリン酸)	3.5
10	(9) グリセリン	0.5
	(10) 精製水	2

C. その他の基剤

	(11) 色材	適量
	(12) 香料	適量
15	(13) 防腐剤	適量

(製法)

60℃に保った(8)に、(7)を(10)(0.5質量%)に溶融させたものを添加し、ディスパーにて10分間攪拌した。ここに、残りの(10)(1.5質量%)と(9)を入れてホモミキサーにて10分間攪拌し、抱水

20 組成物(B)を製造した。

口紅基剤(A)を80℃にて溶融した後、ここに抱水組成物(B)を添加し、ディスパーにて10分間攪拌後、さらに(11)～(13)を添加し、分散攪拌後、成形してスティック状口紅用組成物を得た。

25 (実施例21: スティック状口紅用組成物)

(配合成分)

(質量%)

18

	(1) ポリエチレンワックス (平均分子量 500)	4
	(2) キャンデリラワックス	8
	(3) ジイソステアリン酸グリセリル	2
	(4) 有機シリコーン樹脂 (分子量約 20,000。 $(\text{CH}_3)_3\text{SiO}_{1.2}$ 単位 / SiO_2 単位 = 0.5/1 からなり、平均式 $(\text{CH}_3)_{1.8}\text{SiO}_{1.1}$)	10
5	(5) デカメチルシクロペンタシロキサン	54.95
	(6) フッ素変性メチルフェニルポリシロキサン	3
	(7) メチルフェニルポリシロキサン (15CS / 25℃)	2
	(8) POE (25) POP (20) テトラデシルエーテル	1
10	(9) イオン交換水	5
	(10) グリセリン	2
	(11) プロピレングリコール	1
	(12) 二酸化チタン	4.5
	(13) 赤色 201 号	0.5
15	(14) 赤色 202 号	2
	(15) 赤色 223 号	0.05
	(16) 紫外線吸収剤	適量
	(17) 酸化防止剤	適量
	(18) 香料	適量

20 (製法)

(13) ~ (15) をよく攪拌混合し、(1) ~ (8) および (16) ~ (18) を加熱溶解したものに加え、よく混合した (油相部)。一方、これとは別に、(9) ~ (11) を加熱溶解した (水相部)。油相部に水相部を加え、ホモミキサーで乳化後、型に流し込み、急冷し、スティック状口紅用組成物を得た。

25

(実施例 22 : スティック状乳化リップクリーム)

(配 合 成 分)

(質量%)

A. 乳化ベース

	(1) 合成ヘクトライト	3
	(2) ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体	0.5
5	(3) メチルフェニルポリシロキサン	10
	(4) 精製水	1.5
	(5) グリセリン	0.2
	(6) L-アルギニン塩酸塩	0.5

B. 油相

10	(7) マイクロクリスタリンワックス	1
	(8) ポリエチレンワックス (平均分子量500)	14
	(9) トリー2-エチルヘキサン酸グリセリル	40
	(10) リンゴ酸ジイソステアリル	19.3
	(11) ジイソステアリン酸グリセリル	10

15 (製法)

まず、(1)～(6)で乳化ベースを調製した。すなわち、(3)に(1)、(2)を常温で分散した(油相部)。(4)～(6)を混合溶解した後(水相部)、これを前記油相部に添加分散して乳化ベースを得た。次に、(7)～(11)を加熱溶解した油相に、前記乳化ベースを添加して、十分攪拌混合し、金型に流し込んで放冷し、スティック状乳化リップクリームを製造した。

産業上の利用可能性

本発明により、使用性(のび、つや、化粧もち)がよく、発色が格段に向上した口紅用組成物が提供される。

25 また、保形剤としてセレシンを使用しなくても、保形性に優れた口紅用組成物が提供される。

20

請求の範囲

1. (a) ポリエチレンワックス (平均分子量 300~700) の1種または2種以上を3~25質量%と、(b) 構造中に1個の-OH基を有する液状油分の1種または2種以上を0.1~50質量%、とを含有してなる口紅用組成物。
2. (b) 成分がジイソステアリン酸グリセリル、トリイソステアリン酸ジグリセリル、オキシステアリン酸イソステアリルのいずれか1種以上である、請求項1記載の口紅用組成物。
- 10 3. さらに、(c) マイクロクリスタリンワックスを、前記 (a):(c) = 6:4~9:1の質量比となるように含有してなる請求項1又は2記載の口紅用組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/08496

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl⁷ A61K7/025, A61K7/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ A61K7/025, A61K7/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)
CA (STN)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP, 59-148713, A (Shiseido Company, Limited.), 25 August, 1984 (25.08.84), esp., Claims; page 2, lower left column, line 12 to lower right column, line 3; working example (Family: none)	1-3
Y	JP, 3-63206, A (Kobayashi Kosei Co., Ltd.), 19 March, 1991 (19.03.91), esp., Claims (Family: none)	1-3
Y	JP, 11-147809, A (Kao Corporation), 02 June, 1999 (02.06.99), esp., working examples 1-4 (Family: none)	1-3
Y	JP, 10-152412, A (Shiseido Company, Limited.), 09 June, 1998 (09.06.98), esp., working examples 7,8 (Family: none)	1-3
Y	JP, 10-72308, A (KOSE Corporation), 17 March, 1998 (17.03.98), esp., working example 3 (Family: none)	1-3

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not
considered to be of particular relevance
"E" earlier document but published on or after the international filing
date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is
cited to establish the publication date of another citation or other
special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other
means
"P" document published prior to the international filing date but later
than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or
priority date and not in conflict with the application but cited to
understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
considered novel or cannot be considered to involve an inventive
step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be
considered to involve an inventive step when the document is
combined with one or more other such documents, such
combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
19 February, 2001 (19.02.01)

Date of mailing of the international search report
06 March, 2001 (06.03.01)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP00/08496

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP, 3-176411, A (Kobayashi Kosei Co., Ltd.), 31 July, 1991 (31.07.91), esp., working example 3 (Family: none)	1-3
Y	JP, 10-152414, A (Shiseido Company, Limited.), 09 June, 1998 (09.06.98), esp., working example 4 (Family: none)	1-3
Y	JP, 7-196437, A (KOSE Corporation), 01 August, 1996 (01.08.96), esp., working example 4 (Family: none)	1-3

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A61K7/025, A61K7/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl⁷ A61K7/025, A61K7/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CA (STN)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P, 59-148713, A (株式会社資生堂), 25. 8月. 1984 (25. 08. 84), 特に、特許請求の範囲、第2頁左 下欄第12行~右下欄第3行及び実施例 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 3-63206, A (株式会社小林コーセイ), 19. 3 月. 1991 (19. 03. 91), 特に、特許請求の範囲 (ファ ミリーなし)	1-3
Y	J P, 11-147809, A (花王株式会社), 2. 6月. 19 99 (02. 06. 99), 特に実施例1-4 (ファミリーなし)	1-3

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

- 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

19. 02. 01

国際調査報告の発送日

06 03 01

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

上條のぶよ

印

4 C

9 4 5 4

電話番号 03-3581-1101 内線 3450

C (続き). 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	J P, 10-152412, A (株式会社資生堂), 9. 6月. 1998 (09. 06. 98), 特に実施例7, 8 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 10-72308, A (株式会社コーセイ), 17. 3月. 1998 (17. 03. 98), 特に実施例3 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 3-176411, A (株式会社小林コーセイ), 31. 7月. 1991 (31. 07. 91), 特に実施例3 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 10-152414, A (株式会社資生堂), 9. 6月. 1998 (09. 06. 98), 特に実施例4 (ファミリーなし)	1-3
Y	J P, 7-196437, A (株式会社コーセイ), 1. 8月. 1995 (01. 08. 95), 特に実施例4 (ファミリーなし)	1-3